

マラナ・タ

No Image...

写真を撮り忘れました

～ も く じ ～

巻頭言	久保田牧師	p.1
青年会長挨拶	けんじ	p.2
春の青年修養会報告	ますみ	p.3
編集長挨拶	かほ	p.4

人生の扉

牧師 久保田拓志

自分は何者だろうか？という問いかけは、若い時はもちろんのことですが、生涯をかけて自分の中にわいてくる問いかけであるように思います。特に、先行きが見通せず、不安が大きい時、逆境の中で道が閉ざされた時に、自分は何者か、という問いかけがわいてきます。そのような、はっきりとした問いかけでなくても、「漠然とした将来への不安」とやらを深堀りすると、自分は何者だろうか？という問いかけにたどり着くのではないかと思います。

今年の3月に開かれた、関西部会中高生修養会のテーマも、モーセのアイデンティティの揺らぎを題材にした「私は何者でしょう？～神様が教えてくださる～」でした。一口に自分は何者かと言っても、答えは簡単には出てきません。特に、青年期には、自我の確立に向けて様々な内的葛藤が出てきます。心理学者のエリク・エリクソンは、青年期の葛藤を7つも上げています。一つでも大変だと思いますが、自分の青年期を振り返っても、それなりにしんどいものがありました。

エジプトで奴隷の身分にあったイスラエルの人々に、神の名を尋ねられたら、なんと言えよのかと、モーセは神に尋ねます。その答えがあ有名な聖句です。「私はいる、という者である。」（出エジプト3：14）新共同訳聖書では、この箇所は、「私はある」と訳されています。「私はある」は存在の永続性を示し、「私はいる」というのは、「あなたと共にいる」という意味です。この神名は、信仰の父アブラハムと交わした約束を忠実に守ろうとしてくださる神様の決意の表れでした。「あなたと共にいる」という神様の約束は、イエス様の約束として、私たちにも注がれています。

神様の名が「ある」と「いる」であることは、私たちにとってとても大切なことです。イエス様は、共にいてくださることによって、「こうあるべき」という理想的な姿を私たちに指し示すのではなく、「こうある」というありのままの私たちの姿を示しながら、共にいてくださるからです。アイデンティティには、「可能性」と「限界」という二面性があり、両者の間には緊張関係があります。しかし、一つの「こうあるべき」姿の扉が閉ざされたとしても、イエス様は静かに次の扉を開けるようにと促してくださいます。今の「こうある」姿を、イエス様によってそのままに映し出していただいて、開かれる扉に対して、素直に歩み出していきたいと願っています。

青年会長挨拶

けんじ

どうも、けんじです。マラナタの原稿の締め切りがいつか忘れていたため締切日のギリギリにこの原稿を書いています。スケジュール管理は大事ですね。

青年会の今年の様子ですが、春から新しく青年が教会に来てくれるようになりました！去年の春というと大学生が教会に来るということがなく、良くも悪くもいつもと変わらないメンバーで活動することがほとんどでした。今年はメンバーが入ってきたことでいつも以上に活気付いているかなと感じています。就職などによるメンバーチェンジもありましたが、心機一転今年も頑張ろうと思います！

さて、話は変わりますが、みなさん映画は好きでしょうか？僕はコロナ禍で生まれた趣味の映画が最近再熱して、絶賛マイブーム中です。映画の中でも洋画をよく見るのですが、洋画で描かれる教会の姿というのが本当に面白く感じます。教会を舞台にするものだったり、脚本のご都合主義の片棒を担ぐ形で教会が登場したりすることもあります。

そんな数ある教会が出てくる映画の中から最近見た「WAVES」という映画についてお話しさせてください。この映画はとある家庭が崩壊し、そして再生する一連の流れを描いています。サウンドトラックとなるプレイリストを制作してから内容を決めたとのことで、作中に登場する楽曲がまるで登場人物の心情を代弁するように流れるのが印象的です。

主人公となる家族は父、母、長男、妹の4人家族で、恵まれた環境で暮らしていました。長男であるタイラーは成績優秀スポーツ万能、充実した学校生活を送る青年です。ただ、父親との関係性が良好ではなく、厳格な父親に不満を募らせています。それに加えて恋人ともトラブルがあり、タイラーは耐えきれなくなり道を踏み外します。

この映画の序盤で、家族が教会に行くシーンがあります。そこではコリントの信徒への手紙一の13章「愛」から引用する形で説教が行われていました。しかし、タイラーはその説教で唯一居眠りをしていました。家庭が壊れてしまったとき、父親は自分を責め、救いを求めて教会に向かい、自分を見つめなおします。そしてタイラーも自分の罪を悔い改めるように祈るようになりました。この映画のテーマは家族愛であり、その答えの一つとしてコリントの信徒への手紙が提示されているように感じます。神様への向き合い方で登場人物の変化を繊細に描いているのが印象的であったと同時に、映画を通して御言葉を改めて知るということは僕にとっては新鮮な体験でした。

聖書を理解しているからこそ映画の本質を理解できるのは本当に面白いです。もしかしたらこれも一つのクリスチャンであることの利点なのかもしれません。ただ、聖書やキリスト教の考え方は制作サイドの考え方に依存する部分もあると感じました。

長々と話しましたがこれで会長挨拶とさせていただきます！今年も洛北青年会をよろしく願います！あと面白い映画あったらだれか教えてください！

春の青年修養会報告

ますみ

こんにちは、ますみです。5/11 に青年伝道集会を行ったので、軽くその報告をします (^▽^*)

第一部は、私が社会人になってから受けた恵みについて証をしました。詩編 103:2t『私の魂よ、主をたたえよ。そのすべての計らいを忘れるな。』を取り上げ、進路に悩んだときに良い道を与えて導いてくださっている神様への感謝を忘れないようにしたい、という話をしました。

第二部は、新しく洛北教会に来てくれたまりちゃんの歓迎会を行いました (*^_^*) 歓迎会では、まりちゃん（とお菓子）を囲んで、青年会メンバーが順番に自己紹介をしていきました。それぞれの自己紹介が大盛り上がりし、気が付くと 16 時近くになってしまいました。お互いの出身地や趣味を知ることができたので、これからいろいろ話して仲良くなっていければと思います。 (๑•ㅁ•)॑

ほかの教会から来てくれる大学 1 回生は久しぶりなので、今年の洛北青年会にはフレッシュな空気が流れるのではないかとワクワクです。

新しく来てくれた方も元からいる方も、みなさん今年度もよろしくお願いしま〜す \(*°▽°*)/

編集長挨拶

かほ

こんにちは、かほです。編集長も何年目でしょうか。初めて編集を任せてもらったのは大学2年生だったかと思います。あれから月日が経って社会人になりました。

職種については色々考えたりしましたが、最終的には飲食業へと流れ着きました。飲食業は高校時代に経験があった業界で、苦手意識が高まったので飲食業を避けて就活していましたが、まあ何と言いますか、巡り巡ってまた飲食業界の住人になりました。今の会社は元々別部門を希望して応募していたため、飲食店に配属された後は配属に不満は無いかと色んな人が気にかけてくださいました。ですが、私は特に不満には思っておらず、神様の導きについて行って、そこで出来るだけのことを精一杯頑張ろう、と考えています。

この業界は元旦以外にお休みが無く、シフトも毎日バラバラで、出勤日や出勤時間を間違えないように頻りにカレンダーをチェックしています。生活が変則的すぎて今日が何曜日なのか毎日混乱しています。そんなこともあり、春からは教会に行ける日がガクンと減り、月1回しか行けなかった時もありました。この記事を書いている6月も、第二週以外の日曜は全て出勤日です…。何年も毎週会っていた教会の方々やちびっこ達に会えないのは寂しいですし、自分がまた神様から遠ざかってしまうのではという心配もしています。日曜日の仕事では「いつもなら礼拝に行けているのに…」と、心のどこかで思っています。教会に行けない週は、せめてと思いYouTube配信のアーカイブを流しながら平日の休みを過ごす週間をつけようと考えているところです。

人には人のタイムラインがあって、それは、神様に会えるタイミングが一人一人が異なるのと同じように、人生の中で何かが益として働く時も、その何かが響くための順番もそれぞれに違うはずです。小さい頃から神様を知っている人、年を重ねてから神様を知る人、必ずしも早いから良いというものではなく、神様はその人にとって最も相応しい時を用意してくれているのだと思います。その導きがどんな意味を持っているのか、どういうふうに通じていくのかは私たちにはわかりませんが、『私たちの希望や理想の実現』のような次元を超えて、いつも美しいのなのだと、私はそう信じたいのです。

今の職場は個性豊かな学生バイトたちにも囲まれて楽しいです。「元々希望していた部署に移動できる時があれば良いね」と上司や先輩が言ってくださるのですが、不思議にも元々希望していた部署に行きたいと思うことはありません。好奇心程度の興味はありますが。学生バイト達との楽しい日々が良いです。

今後上手くシフトを調整して、月2、3回は教会に足を運べるようにしたいです。どんな状況の中でも、神様はいつも私たちにとって最適な場所を用意してくださると信じて、明日も過ごしていきたいと思います。

働きながら書くのめっちゃ大変やん…みんないつもありがとう…